

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

東員町地域公共交通会議 (東員町)

平成24年 7月 2日 設置

令和 3年 3月22日 東員町地域公共交通計画策定
令和5年8月改訂
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・地域公共交通調査事業

■ 東員町地域公共交通計画の概要

《基本理念》

公共交通が暮らしを支えるまち

町民、特に交通弱者が健康で活動的な生活を送るために、公共交通を利用して移動ができる環境を整備することで公共交通が町民の暮らしを支えるまちを目指す。

《基本方針》

- 1 未来につながる公共交通（維持・活性化）
- 2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）
- 3 身近に感じる公共交通（利便性向上）
- 4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）

《計画期間》

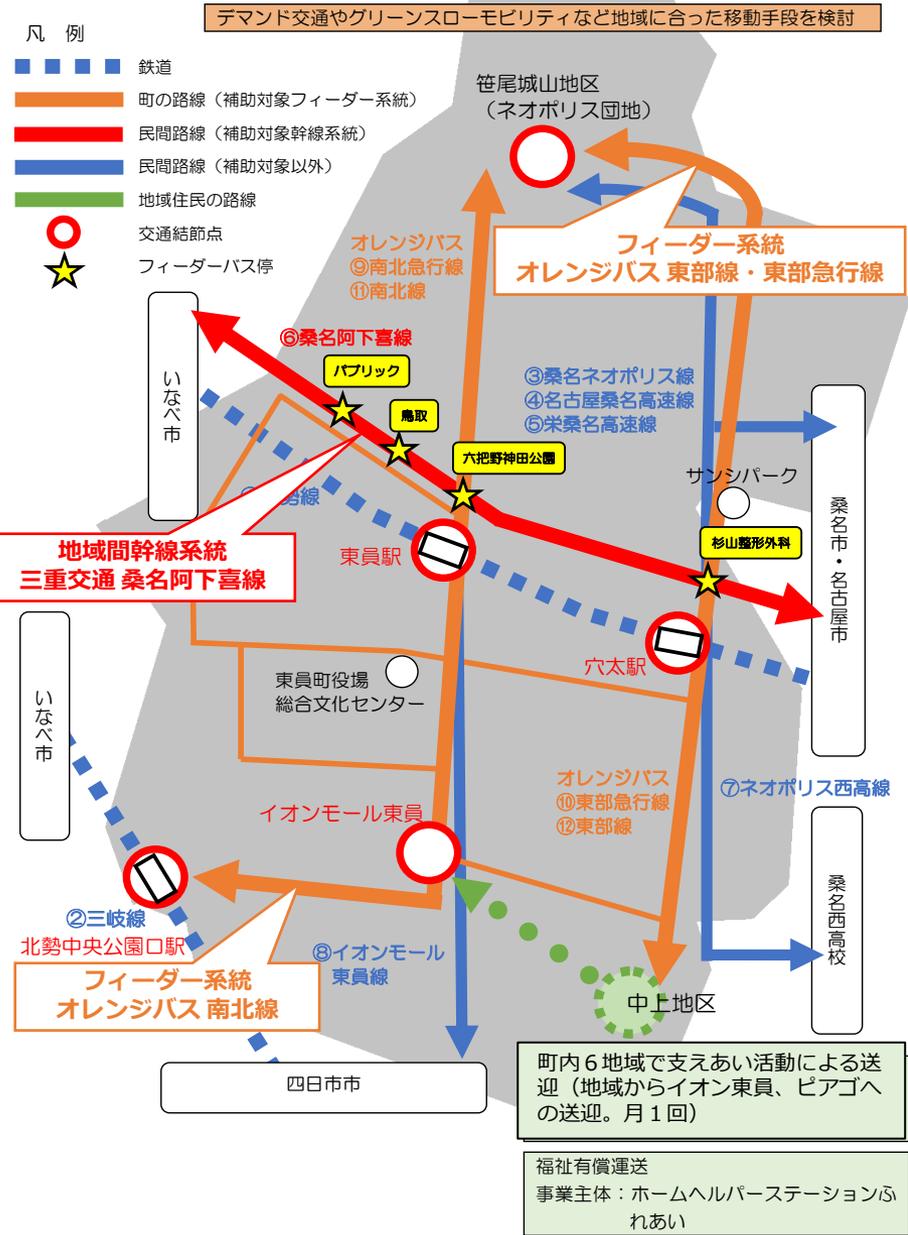
令和3年度～令和7年度（5年間）

《公共交通ネットワークの形成方針》

東西方向は民間路線、南北方向はオレンジバスで機能分担

- ✓ 隣接する桑名市などへの広域移動（東西方向）
⇒ 鉄道(北勢線・三岐線)、路線バス(桑名阿下喜線)により、民間事業者が対応
- ✓ 上記に接続する端末移動及び町内移動（南北方向）
⇒ オレンジバスにより、行政が対応

《公共交通ネットワーク図》



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標 評価指標目標値		達成状況						昨年度比
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	4年目 R6年度	5年目 R7年度	
1 未来につながる公共交通（維持・活性化）								
活維鉄 性持道 化の	北勢線利用者 数を基準値以 上に増加	2,551,724人 (R元年度)	2,006,168人 (R2年度)	1,923,377人 (R3年度)	2,084,178人 (R4年度)	2,150,364人 (R5年度)	2,204,941人 (R6年度)	↑
バス の 維 持 ・ 活 性 化	桑名阿下喜線 の輸送量を基 準値以上に増 加	38.0人/日	35.3人/日	38.0人/日	40.8人/日	46.2人/日	40.9人/日	↓
	イオンモール 東員線の輸送 量を基準値以 上に増加	31.3人/日	48.8人/日	47.2人/日	45.1人/日	42.9人/日	39.0人/日	↓
持 続 可 能 な 仕 組 み の 構 築	オレンジバス 収支率を 15%以上	13.7% (R元年度)	9.9% (R2年度)	14.3% (R3年度)	14.6% (R4年度)	15.2% (R5年度)	15.6% (R6年度)	↑
	オレンジバス の運賃収入額 が増加	8,516千円 (R元年度)	7,247千円 (R2年度)	11,107千円 (R3年度)	11,330千円 (R4年度)	11,826千円 (R5年度)	12,216千円 (R6年度)	↑

考察

- ・北勢線は目標未達成であるが、利用者数は増加傾向。利用促進活動のほかに、令和7年3月に導入した全国ICカードにより利用しやすくなったことや、イベント実施による利用促進も増加要因と推測。
- ・路線バスは、利用促進活動などにより目標達成しているが昨年度より減少。
- ・オレンジバスは、利用増により収支率、運賃収入が増加し目標達成。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標 評価指標目標値		達成状況						昨年度比
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	4年目 R6年度	5年目 R7年度	
2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）								
交通結節点の 利便性 向上	東員駅の乗車人員を基準値以上に増加	184,604人 (R元年度)	139,089人 (R2年度)	140,466人 (R3年度)	155,584人 (R4年度)	168,338人 (R5年度)	169,464人 (R6年度)	↑
	穴太駅の乗車人員を基準値以上に増加	126,968人 (R元年度)	102,401人 (R2年度)	101,708人 (R3年度)	107,602人 (R4年度)	113,562人 (R5年度)	112,338人 (R6年度)	↓
	北勢中央公園口駅（三岐線）の乗車人員を基準値以上に増加	104,337人 (R元年度)	81,225人 (R2年度)	80,616人 (R3年度)	85,764人 (R4年度)	80,907人 (R5年度)	78,588人 (R6年度)	↓

考察

- 東員駅は増加傾向。定期外利用、通学定期は増加し、通勤定期が減少した。穴太駅も増加傾向ではあるが、前年度よりやや減少。定期外利用、通勤定期は増加し、通学定期は減少した。
- 北勢中央公園口駅は減少傾向。定期外はやや増加したが、通勤定期、通学定期が大きく減少した。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標 評価指標目標値	達成状況						昨年度比	
	基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	4年目 R6年度	5年目 R7年度		
3 身近に感じる公共交通（利便性向上）								
オレンジバス再編	オレンジバス乗車人員を基準値以上	83,844人	80,092人	74,317人	76,715人	75,705人	76,163人	↑

【路線別利用者数の推移】

単位：人

【月別利用者数の対前年増減】

単位：人

年間利用者数	南北急行線	東部急行線	南北線	東部線	総合計	月	増減	月	増減
令和7年度実績	13,460	1,315	49,134	12,254	76,163	R6/10	57	R7/4	-360
令和6年度実績	13,248	1,498	48,699	12,260	75,705	R6/11	27	R7/5	-57
令和5年度実績	12,577	3,080	52,568	8,490	76,715	R6/12	103	R7/6	72
令和4年度実績	11,444	2,103	51,620	9,150	74,317	R7/1	276	R7/7	403
増減 (R7/R6)	1.02	0.88	1.01	1.00	1.01	R7/2	-974	R7/8	509
						R7/3	161	R7/9	241

4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）

外出支援	おでかけ元気パス利用者数 18,000人/年	0人	16,656人 (R3年度)	17,496人 (R4年度)	20,165人 (令和5年度)	20,994人 (令和6年度)	—	↑
------	---------------------------	----	-------------------	-------------------	--------------------	--------------------	---	---

考察

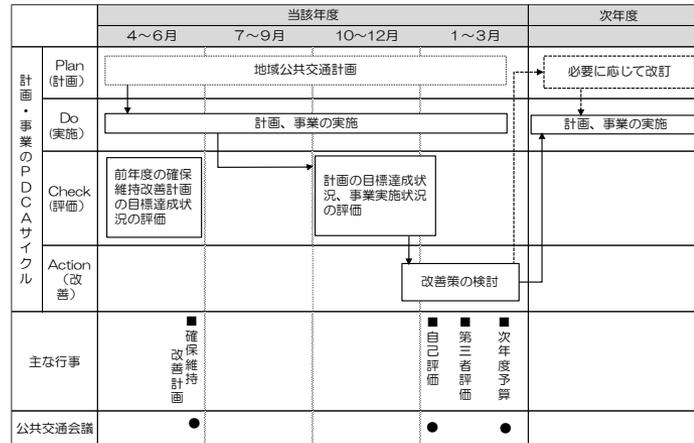
- オレンジバス乗車人員は目標未達成であるが、昨年度より増加。イベントでの啓発活動、無料券配布による利用機会創出などにより利用者数を維持した。積雪により運休が発生した2月に大きく利用者数が減少した。運休期間が長かった東部線への影響が特に大きかった。
- お出かけ元気パスは、広報、PRに努めたため目標達成し増加傾向。

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道（北勢線）及び鉄道駅（東員駅）の利用者数は昨年度より増加し、回復基調。 ・ 三重交通桑名阿下喜線、イオンモール東員線の輸送量は目標達成しているが、昨年度よりは減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道や幹線バスなどの広域にまたがる公共交通については、引き続き交通圏内の自治体（いなべ市、桑名市）や県との協働による利用促進施策に取り組む。 ・ 北勢線については、北勢線事業運営協議会において今後の在り方を検討しており、これと連携した取組を実施する。 <p>⇒以上により東員町地域公共交通計画の目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジバスの利用者総数は昨年度よりやや増加し維持。様々な機会での公共交通のPRや、おでかけ元気バスの配布等の利用促進施策による効果と推察。 ・ オレンジバスの収支率は目標達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度策定中の第2次地域公共交通計画に基づき、北勢線を含むイベントでのPRや無料乗車券の活用などによる乗車機会の創出、広報誌やSNSを活用した情報発信など、公共交通利用の啓発を行い利用促進につなげる。 ・ オレンジバスのバス停への上屋設置、キャッシュレス決済への取組などを進める。 ・ オレンジバスの利用実態にあったルート再編と新たな移動手段導入に向け、実施計画を検討する。 <p>⇒以上により東員町地域公共交通計画の目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出支援策としての「お出かけ元気パス」利用者数は増加傾向で目標達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運賃改定に合わせて実施した「お出かけ元気パス事業」「未就学児の運賃無料」などの施策を継続するとともに、第2次地域公共交通計画に基づく利便性向上の取組により、利用者増に取り組む。 <p>⇒以上により目標達成の状況を継続する。</p>

年度	二次評価結果 (期待する取組)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	1 現行の地域公共交通計画の計画期間は令和7年度までであるため、現行計画に基づき実施した各種取組の振り返りや評価及び課題整理などを行い、次期計画の策定に取り組まれることを期待。	・現行計画で実施した事業及び数値目標の達成状況の評価、実態調査（町民、バス利用者、北勢線アンケート調査）、生活交通を考える会ワークショップによる意見を踏まえて、第2次計画を策定中。	・令和8年2月実施予定のパブリックコメントを踏まえ、3月に第2次東員町地域公共交通計画を策定予定。
	2 オレンジバスを補完することを想定した新たな移動手段の検討に際しては、地域特性、交通事情、ニーズ、他の公共交通との役割分担、導入コストや運営コストと収入予測の見立てなど、多方面からの検討が必要となることから、丁寧に検討されることを期待。	・オレンジバスネットワークと人口との重ね合わせによる交通空白地分析、アンケート調査等によるニーズ分析、AIオンデマンドを導入した場合の費用試算などの検討を実施。これらの結果を踏まえて、今後、導入に向けた取組を計画的に実施予定。	・令和8, 9年度はさらなる住民意見の把握、実施計画の作成を予定。 ・令和10、11年度に実証運行を予定。 ・上記の結果を踏まえて令和12年度から本格運行を判断。
前々回	1 策定した利便増進実施計画の取組を着実に実施し、定期的な効果測定の実施を期待。	・オレンジバスの再編に伴う効果を把握、分析。	・毎年、効果測定を実施し、必要な改善を行うとともに、キャッシュレス決済などの取組を推進。
	2 鉄道や地域間幹線バスとの乗り継ぎによる公共交通ネットワークとしての機能を確保維持するため、引き続き、利用者の声や利用状況を確認し、近隣自治体や交通事業者との連携・協働の下、更なる周知や利用促進などに努められることを期待。	・様々なイベントでの公共交通ブース出展（アンケートの実施など）、住民とのワークショップなどの利用促進活動を実施。	・今後も、生活交通を考える会が主体となって、イベント時などにおいて公共交通利用をPR。 ・イベント時のアンケート実施、自治会での意見把握などにより、利用者の意見を把握し、改善につなげる。

6.計画・評価の推進体制

【年間単位の評価スケジュール】



【協議会等の開催状況】

	開催日	主な議題
令和6年度第2回 東員町地域公共交通会議	令和7年 1月16日	地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について
公共交通に関する意見交換会 (鳥取集落センター)	令和7年 3月28日	公共交通の利用状況、課題などについて意見交換
令和7年度第1回 東員町地域公共交通会議	令和7年 6月19日	決算、事業実施状況と目標達成状況の評価、確保維持改善計画（フィーダー系統）、地域公共交通計画の策定について
令和7年度第1回 東員町生活交通を考える会	令和7年 9月17日	今年度取り組む事業について（わくわくフェスタ、TOINマルシェ）意見交換
令和7年度第2, 3回 東員町生活交通を考える会	令和7年10月 5日、 10月25日	とういんわくわくフェスタ、TOINマルシェへの出展 オレンジバス、北勢線等、公共交通の利用促進活動
令和7年度第4回 東員町生活交通を考える会	令和7年11月13日	第2次地域公共交通計画（素案）について意見交換 ワークショップ「東員町の公共交通をもっと便利にするために」
令和7年度第2回 東員町地域公共交通会議	令和7年11月26日	第2次東員町地域公共交通計画（素案）について協議 東員町地域公共交通会議規約等の改正について
令和7年度第3回 東員町地域公共交通会議	令和8年 1月13日	第2次東員町地域公共交通計画（案）について協議 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価

中部様式
(調査事業)

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

東員町地域公共交通会議

平成24年 7月 2日 設置

調査事業 (計画策定) 令和8年3月 地域公共交通計画策定予定

B.地域公共交通調査事業の内容と結果

実施した調査およびその結果明らかになったこと

事業内容	結果概要
<p>町民アンケート 町内在住16歳以上3,000人を抽出。無作為配布とWEB併用。移動実態、改善要望、デマンド利用意向などを質問。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年7～8月実施。回収数1,665票（回収率55.5%）。 ・バス停まで5分以上が28.7%。オレンジバスの運行本数・ダイヤ改善の意向が多い。 ・デマンドを利用したい意見が30.3%。オレンジバス利用者の半数が利用意向。
<p>オレンジバス・桑名阿下喜線の利用者アンケート 平日2日間調査。利用目的、バス運行の評価、デマンド利用意向などを質問。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年9月実施。回収数オレンジバス235票、桑名阿下喜線59票。 ・オレンジバス利用者は、自動車免許非保有者が8割。 ・オレンジバス利用者は大半がサービスに満足。 ・デマンド交通のオレンジバスの代替としての利用意向は9.4%と少ないが、わからないを含むと約半数。オレンジバスのほうが良い理由は、予約が面倒、オレンジバスのほうが便利そうだから、運賃が高そうだから。
<p>町民アンケート（生命保険契約者） 移動手段、移動の困り具合などを質問。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3～6月実施。回答数238名。 ・普段の買い物、通院の移動手段は車移動が9割以上（全世代合計）。70歳代以上では2割から3割が送迎。80歳以上でオレンジバスの利用が大きく増加し約15%。 ・移動に困っている人は、70歳代で約11%、80歳以上では約17%。
<p>北勢線アンケート調査 沿線住民、沿線事業所、利用者対象。北勢線の評価など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年10～11月に北勢線事業運営協議会が実施。 ・社内快適性、鉄道接続の重要度が高いが、満足度は低い。 ・北勢線の効果は、必要時に利用できる安心感が最も多い。

調査結果の「第2次東員町地域公共交通計画」への反映

【目指す姿】交通弱者が公共交通を利用して移動ができています

【基本目標】

①持続可能性の向上

- 三岐鉄道北勢線・三岐線の路線維持・活性化を支援
- 路線バス、タクシーの維持、活性化を支援
- 桑名市、いなべ市、四日市市と連携した取組の推進

②利用しやすい環境の構築

- 乗り継ぎダイヤ調整
- 主要なバス停留所の環境整備
- オレンジバスのキャッシュレス決済の導入

③ニーズに対応したオレンジバス再編・新たな移動手段の導入を推進

- 新たな移動手段の導入を含め、オレンジバスを再編
- 地域の支えあい活動など、地域と連携した取組など輸送資源を総動員

④魅力向上と利用促進

- 町民の外出支援
- 福祉、交通安全、観光などの多様な施策との連携
- 利用促進活動の継続、発展による公共交通の魅力向上
- 「生活交通を考える会」の活動を継続